

49 高くなりましたが、^{おうさま}王様はそれでいいとは言いませんでし
50 た。

51 大男はまた南の町へ行きました。白い鳥^{とり}を連れて何日も
52 何日も歩いていきました。大男は、また重くて大きな大理^{だいり}
53 石^{せき}をもらって、^{おうさま}王様の町へ帰りました。塔^{とう}は、どんどん高
54 くなりました。星^{ほし}が見えない夜でも、大男の明かりだけは
55 見えました。それは、暗い夜の星のようでした¹。

56 ある風^{かぜ}が強い夜の事です。町の人たちは、いつものよ
57 うに²寝る前に塔^{とう}の上の明かりを見ました。明かりは、風で
58 大きくなったり、小さくなったりしています。町の人達は
59 それを見て、初めて大男がかわいそうだと思います。^{おう}王
60 様も窓から顔^{かお}を出して、塔^{とう}を見上げました。

61 ーこんなに強い風^{かぜ}の中で大男はまだ働^{はたら}いている。かわ
62 いそうだな。明日は、もう働^{はたら}かなくてもいいと言おう³ー

63 そんなことを知らない大男は、働^{はたら}き続けました。働^{はたら}
64 ながら、心^{こころ}の中では、どんなことをしたら白い鳥^{とり}が涙^{なみだ}
65 流^{なが}すのか、ずっと考えていました。

66 急に、大男は何かいいことを考えたという明るい顔^{かお}をし
67 て、肩^{かた}の上で眠^{ねむ}っている白い鳥^{とり}に話しかけました。

68 「私^{わたし}が死^しんだら、お前^{かな}は悲^{かな}しいかい？ 涙^{なみだ}は出るかい？」

69 すると、白い鳥^{とり}は目を開けて、大きい声^{こえ}で鳴きました。

70 「そんなことをしてはいけない」と言っているよう
71 た。

72 「えっ、私^{わたし}が死^しんではいけないのか？ 死^しんだら泣^ないてく
73 れるんだね？ 涙^{なみだ}を流^{なが}してくれるんだね？ じゃあ、私^{わたし}はこ
74 こから飛^とび降りて、お前^しのために死^しのう⁴」

¹het was als(of)...?

²zoals altijd

³Informeel pendant van 言いましょう.

⁴Informeel pendant van 死にましょう.